

■夢の実現へリニア中央新幹線③〇
市民とともにリニアのまちづくり①
ビジョン策定に向けて本格的な取り組みがスタート

今月は、6月1日(金)にリニア中央新幹線を活用したまちづくりを全市的に推進・検討する組織として設置した「リニアのまちづくり推進本部」「リニアのまちづくりビジョン策定委員会」合同会議と策定委員会の下部組織である各委員会の開催状況についてお伝えします。

**第二回リニアのまちづくり推進本部
 第一回リニアのまちづくりビジョン
 策定委員会合同会議**

今回は、推進本部およびビジョン策定委員会設置後、委員の皆様にお集まりいただく最初の会議のため、合同で開催することとなりました。

はじめに、推進本部長の青山市長が「駅の位置が決まれば、アクセス道路、駅周辺整備など具体的な計画を策定していなければならず、それまでに根幹となる市のビジョンを市民の英知を集結して組み立てたい。策定委員会では、様々な側面から議論をしていただき、中津川の魅力や地域資源に磨きをかけて、リニアの波及効果に結び付けていくことが大切」とあいさつしました。

続いて、策定委員長の竹内伝史岐阜大学名誉教授が「リニアの波及効果は市に大きな影響を与える。地域づくりに最大限の効果が発揮できる

よう手助けをしていきたい」とあいさつされました。

この会議で審議された事項や委員の皆様から寄せられた主な意見は次のとおりです。

- ①運営方法
会議は公開とし、会議資料および議事録は、市のホームページで公開をする。
- ②リニア中央新幹線計画に対する取り組み状況について
- ・事務局より配布資料に基づき説明
- ③ビジョン策定にあたっての論点と視点の整理について（次頁の表のとおり）



あいさつする竹内委員長

- ④今後のスケジュールについて
- ・ルート、駅位置の詳細位置公表を睨み、来年夏頃までにビジョンを完成の予定

会議資料はホームページでご覧いただけます。

推進本部 <http://www.city.nakat-sugawagifu.jp/wiki/中津川市リニアのまちづくり推進本部>

策定委員会 <http://www.city.nakat-sugawagifu.jp/wiki/中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会>

リニアのまちづくりビジョン策定委員会、第一回地域委員会、女性・若者委員会

地域委員会は、5月22日(火)に健康福祉会館多目的ホールで開催され、委員長にむらづくり協議会会長の中島紀子氏（加子母地区）、副委員長にまちづくり・むらおこしいききネット会長の花田美晴氏（阿木地区）が選出され、委員会における検討事項や今後のスケジュールが確認されました。

女性・若者委員会は、5月25日(金)に市役所大会議室で開催され、委員長に市消防団の前田公生氏、副委員長に坂本地域リニア中央新幹線対策協議会の黒田ところ氏が選出され、委員会における検討事項や今後のスケジュールが確認されました。

ビジョン策定にあたっての論点と視点などについて(案)	
論点	①リニアの波及効果と時代潮流を踏まえた中津川市の持続的発展に向けたまちづくりの方向 ②県内市町村、県境を越えた周辺圏域との一体的発展を見据えた連携のあり方 ③上記まちづくりや連携に向けた取り組みの具体的方策（アイデアと取り組み時期） 地域資源の活用方策および取り組み (1)交流促進（観光、地場産品、コンベンション） (2)定住人口増加（産業、住宅、教育、暮らし） (3)中心市街地活性化や各地域の特性を活かした地域づくり ④アクセス機能およびリニア駅機能などのあり方 駅などの詳細位置決定後の具体的な計画策定の基となる機能論の整理 ⑤市域のゾーニング
視点	①上位計画との整合性 ・岐阜県リニア基本戦略 ・岐阜県リニア活用戦略(策定中) ②リニア駅設置市として果たすべき役割から捉えた視点 ・県土および周辺圏域一体の発展に向けた広域的視点 ・市の持続的発展及び市民の暮らし向上に主眼においた視点 ・市内各地域の活性化に主眼をおいた視点 ③リニア駅と車両基地のそれぞれの機能の特性から捉えた視点 ④「身の丈」の視点 社会情勢や需要動向を踏まえた柔軟かつ段階的な計画推進

上記(案)について、委員から寄せられた主なご意見

- ・中津川市は観光、農業、製造業など資源が豊富であり、リニアができると日本で一番いい場所になると思う。こうした資源を活用できる地域づくりをしていきたいし、広域的に捉えるべき。
- ・リニア駅は県の東の玄関口。ビジョン策定には、駅アクセスやヒノキや木工、石材等地場産品の活用など課題に挙げるべき。
- ・住民の日常の動き、通勤通学だけでなく買い物や会合など、どういう動きがあるのか交流構造を把握しておくことが重要。
- ・学力レベルの高いところに定住する傾向があると聞く。中津川市の学力レベルを知ることが大切だ。
- ・開業の2027年だけを見がちであるが、それまでに約15年ある。これから15年の地域づくりをどう進めていくかが重要。地域活性化に向けた活動を進めながら、ビジョン策定に取り組むことが大切。
- ・東海環状自動車道が開通した際、インターチェンジがあっても効果に温度差が見られた。早い段階から地域の人たちと議論を深めることが大切。

問 リニア推進課（☎内線324）

**リニア中央新幹線計画
 説明会開催**

6月13日(水)、東美濃ふれあいセンター歌舞伎ホールで、J R 東海とリニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会の共催による説明会が開催され、約500名が参加されました。

同盟会副会長の青山市長が「ルート、駅の概略位置が示されて約1年が経過した。現在、環境影響評価の調査・検討が進められており、着工に向けた準備が具体的かつ着実に進められていることに対し感謝する。リニア中央新幹線の早期着工、リニアの効果を全県に波及させ、豊かな県土づくりのために、これまで以上にご支援とご協力をお願いしたい」とあいさつしました。

続いて、J R 東海より、中央新幹線計画と環境影響評価に係る現地調査について、パワーポイントを用いて説明が行われました。

参加者からは、交流人口の増加、まちの活性化への期待の意見のほか、騒音、振動、磁界に関する質問が出されました。



説明会の様子